

令和4年度施政方針と当初予算

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中において、市民の生命と生活、産業・経済を全力で守るため、できる限りの対策を講じていくとともに、国連の持続可能な開発目標「SDGs（エスディーズ）」への取り組み、市民サービスや行政業務の効率化などによる行政サービスの向上を目指して自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進していきます。

また、南九州市は2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へのチャレンジを宣言し、市民や事業者などと一体となって脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。

新庁舎建設については、市民からの意見などを尊重し、基本構想・基本計画の方向性に沿って基本設計・実施設計に取り組みます。

これらのほか、投資すべき分野・重点施策を明確にし、総合計画や創生総合戦略などに盛り込んだる各種施策を着実に実施していきます。

令和4年度 施政方針（抜粋）

令和4年3月議会定例会で市長が示した令和4年度施政方針を抜粋してお知らせします。

1 豊かな自然 活力ある農村 未来に向けて発展する まちづくり

農業の振興については、生産基盤の整備、優良農地の確保などを図るとともに、多様な担い手農家の育成・確保・支援、農家の収入減少を補てんするための収入保険制度への加入推進、農産物のブランド化や6次産業化など生産流通体制の強化に努めます。

さらに、近年のサツマイモ基腐病対策として健全なバイオ苗生産供給体制の拡充にも取り組みます。

茶業については、市場性の高い茶生産やスマート農業の実現に向けた持続可能な茶業の支援、知覧茶ブランドの強化を図るとともに、畜産については、優良畜種の確保や畜産経営の基盤整備などにより競争力のある産地づくりを進め、悪性家畜伝染病の発生および侵入・まん延防止にも努めます。また、本年は第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催され、本市が肉牛の部の会場となっていることから、関係機関・団体が一体となって大会を盛り上げていきます。

林業の振興については、適正な伐採と再生林の確保、治山対策などにより森林資源の確保・利用に努めます。



▲3月議会定例会で施政方針を述べる市長

2 魅力と活力にあふれ にぎわう まちづくり

商工業の振興については、市民のニーズや社会変化の潮流をつかみ、新たな視点で取り組む商工事業者や団体、本市を拠点とする起業家などを支援するとともに、ふるさと納税の推進については、制度を活用した地域の特産品のPRに努め、寄付者との良好な関係性の構築を図ります。

企業立地の推進では、地域経済の発展につながる新たな雇用の場の確保を目指すとともに、サテライトオフィス・テレワーク施設を活用した企業の誘致を図ります。

観光の振興については、サイクルツーリズムやアウトドア施設など環境整備を充実させながら、本市の新たな魅力を広く発信することで誘客拡大を図るとともに、観光消費に主眼をおいた食・お土産などの開発や体験の磨き上げに取り組みます。

3 人と物が行き交い 快適で暮らしやすい まちづくり

市道については、利便性、安全性を考慮しながら計画的に整備・補修を行い、橋梁については、長寿命化修繕計画に基づき補修、長寿命化を図ります。

ひまわりバスについては、交通弱者の交通手段を確保するため継続運行するとともに、予約型乗合タクシーの路線拡充を図ります。

市街地の形成については、快適な生活空間の確保と潤いのある街路環境の保全、景観に配慮したまちづくりを推進し、移住・定住については、地域ブランディング事業による市の魅力発信、住宅団地の分譲販売、空き家などの流通促進、住宅取得補助や家賃補助などの移住促進対策に取り組みます。

4 安全で安心して 住みやすい まちづくり

環境保全対策の推進については、ゼロカーボンシティ宣言を行い、地球温暖化対策や脱炭素社会実現に向けた取り組みを進めるとともに、ガイドラインに沿った再生可能エネルギーの適正な設置・管理の促進、省エネルギー対策の推進を図ります。また、市有地への再生可能エネルギー施設を整備し、市公共施設での温室効果ガス排出の削減に努めていきます。

生活環境の向上および公衆衛生の推進については、日常生活に係る環境・公衆衛生の保全、ごみの適正な処理や排出量の削減を図るとともに、(仮称)南薩地区新クリーンセンターの施設整備については、南薩地区衛生管理組合および構成市と連携しながら計画的に取り組めます。

消防・防災体制の充実については、市民の生命と財産を守るため災害対応力や地域防災力の向上に取り組めます。新たな消防救急業務の拠点施設として整備を進めていた新しい川辺分遣所が令和4年度から稼働します。いつ起こるかわからない災害・救急出動に対応できるよう備えていきます。

5 みんなで支え合い いきいきと健やかに暮らせる まちづくり

地域保健・医療の充実については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中において、市民の命と健康を守ることを最優先に、重症化予防や感染予防などの対策を講じていきます。

子育て支援については、子育てしやすい拠点施設整備や子ども医療費の対象者拡充、子育て世代包括支援センターの活動充実、保育士確保への取り組みや保育所などの施設整備を推進します。

高齢者福祉については、生きがいづくりや健康づくりの支援、介護(介護予防)サービスの提供、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組めます。

障がい者福祉については、障がい者の個々に応じた多様な支援、保健・医療・福祉サービスの充実を推進します。



6 心の豊かさと創造力を育む 教育・文化の まちづくり

学校教育の充実については、個に応じたきめ細かな教育の充実、心の教育やICTを活用した教育の情報化の推進、人権教育や道徳教育の充実を図ります。

学校給食については、子育て世帯の経済的負担を軽減するために、引き続き小・中学生の給食費を一部助成します。

社会教育や図書館サービスの充実を図り、生涯学習や生涯体育の推進、地域文化の振興や文化活動の推進、文化財の保存・活用にも努めていきます。

令和5年に延期された鹿児島国体と全国障害者スポーツ大会のソフトボール競技などの開催地として準備を進めていきます。

市内高等学校の活性化については、特色ある学校運営に向け、学校や関係団体と連携していきます。

平和を語り継ぐ都市の実践については、特攻隊員の残した貴重な資料の調査・保存に努め、平和と命の尊さや二度と悲惨な戦争を起こしてはならないことを語り継いでいきます。

7 みんなで創る 協働と自立の まちづくり

地域コミュニティの充実については、地域リーダーの育成、コミュニティ組織のさらなる活性化を図り、共生・協働によるまちづくりを目指します。

男女共同参画社会の実現については、個性と能力を十分に発揮できるよう、性の多様性、多文化共生、女性活躍などの広報・啓発を行います。

効率的な行政運営の推進については、デジタル技術の活用や組織のスリム化などによる行政改革の推進、行政組織の効率化、行政サービスの充実、公共施設の適正配置および管理・運営などに努めます。

また、限られた財源による行政サービスの持続的提供のため、歳出抑制に向けた事務改善、事業の統廃合などに取り組み、堅実で着実な財政運営に努めていきます。

令和4年度 南九州市当初予算

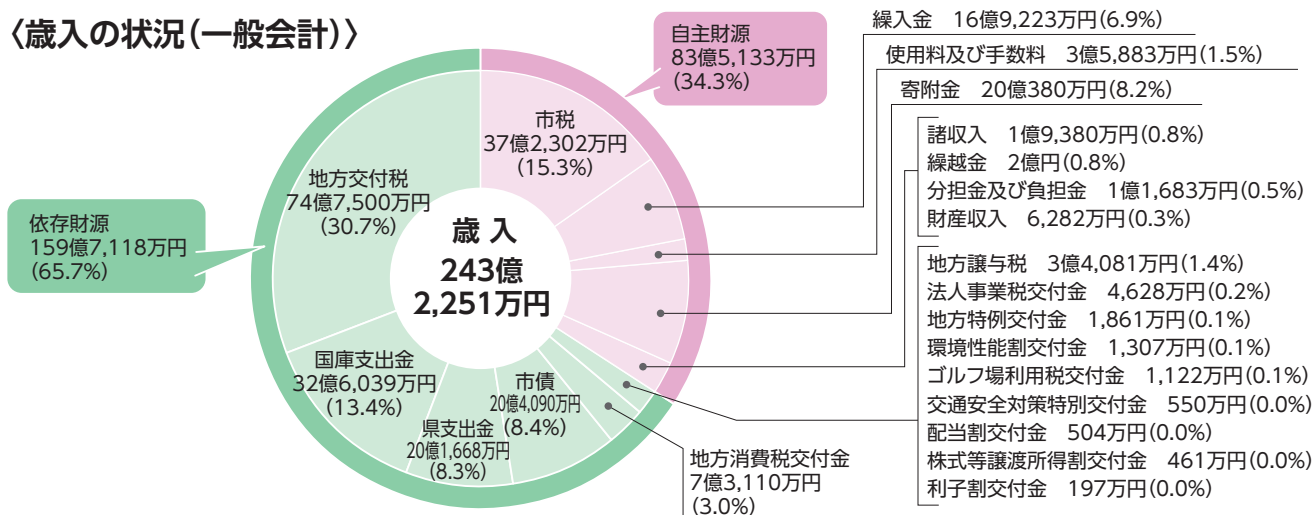
一般会計 243億2,250万9千円 (対前年度比 +4.6%)
特別・企業会計 133億5,058万4千円 (対前年度比 +2.0%)

南九州市の令和4年度当初予算は、行政改革大綱、集中改革プランおよび中期財政計画(令和3年度策定)に基づき、長期的な視点に立った財政運営に努めるとともに、第二次南九州市総合計画の基本計画に位置付けられた諸施策を確実に推進するため、効率的かつ重点的な予算編成を行いました。特に令和4年度は「子育て支援の充実」、「教育環境の充実」や「新しい観光形態への取り組み」など、コロナ禍においても南九州市の魅力を発信し、市民が住んでいて良かったと実感できるような施策に予算の重点的な配分を行いました。

一般会計の総額は、前年度比4.6%、10億7,550万9千円増の243億2,250万9千円となりました。また、一般会計と特別会計および企業会計を合わせた予算総額は、376億7,309万3千円で、前年度比3.7%、13億3,565万8千円の増額となりました。

令和4年度当初予算の歳入歳出状況

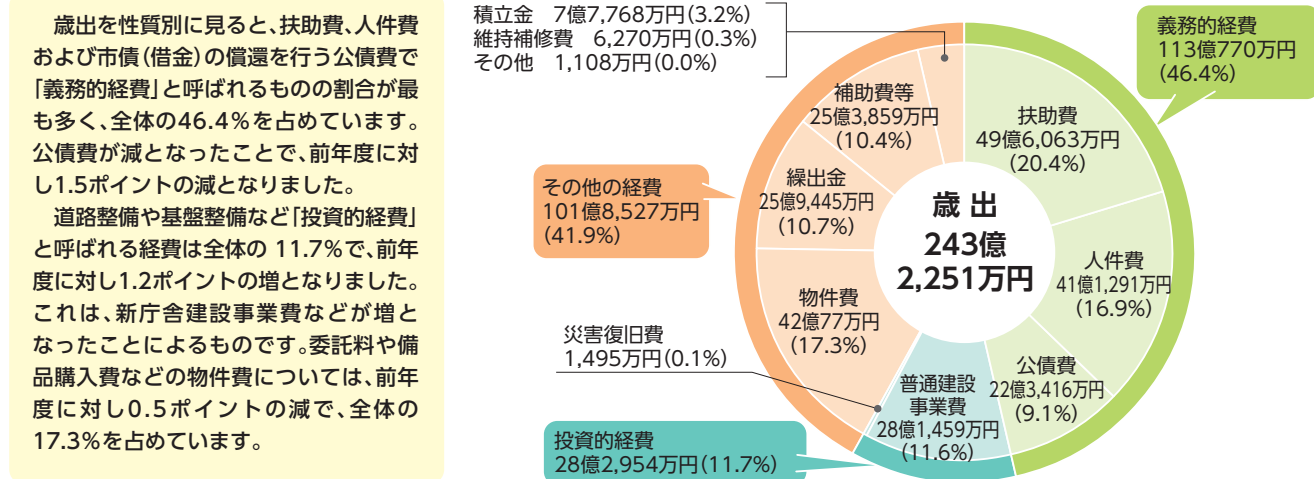
〈歳入の状況(一般会計)〉



歳入は、国や県から交付されるお金である「依存財源」と呼ばれるものが総額の65.7%を占めています。依存財源のうち、最も多いものは、地方自治体が一定水準の行政サービスを保つために国から交付される地方交付税で、全体の30.7%を占めており、以下、国庫支出金、市債(借金)、県支出金の順となっています。

一方、市が自ら賄えるお金である「自主財源」のうち、最も多いものは、市民の皆さんに納めていただく市税で、全体の15.3%を占めています。寄附金の主なものはふるさと寄附金によるもので、前年度に対して0.4ポイントの減となっています。

〈性質別歳出の状況(一般会計)〉



歳出を性質別に見ると、扶助費、人件費および市債(借金)の償還を行う公債費で「義務的経費」と呼ばれるものの割合が最も多く、全体の46.4%を占めています。公債費が減となったことで、前年度に対し1.5ポイントの減となりました。

道路整備や基盤整備など「投資的経費」と呼ばれる経費は全体の11.7%で、前年度に対し1.2ポイントの増となりました。これは、新庁舎建設事業費などが増となったことによるものです。委託料や備品購入費などの物件費については、前年度に対し0.5ポイントの減で、全体の17.3%を占めています。

〈目的別歳出の状況（一般会計）〉

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度
民 生 費	77億5,279万円 (31.9%)	78億1,394万円 (33.6%)
総 務 費	43億9,668万円 (18.1%)	39億4,836万円 (17.0%)
衛 生 費	22億4,815万円 (9.2%)	20億3,738万円 (8.8%)
公 債 費	22億3,416万円 (9.2%)	22億9,773万円 (9.9%)
教 育 費	21億630万円 (8.6%)	17億2,241万円 (7.4%)
土 木 費	16億819万円 (6.6%)	15億643万円 (6.5%)
農林水産業費	15億5,727万円 (6.4%)	17億2,014万円 (7.4%)
消 防 費	11億4,116万円 (4.7%)	11億4,114万円 (4.9%)
商 工 費	3億1,182万円 (1.3%)	1億8,970万円 (0.8%)
議 会 費	1億6,316万円 (0.7%)	1億6,180万円 (0.7%)
諸 支 出 金	7億7,788万円 (3.2%)	6億9,189万円 (3.0%)
予 備 費	1,000万円 (0.0%)	1,000万円 (0.0%)
災 害 復 旧 費	1,495万円 (0.1%)	608万円 (0.0%)

歳出を目的別に見ると、最も大きな割合を占めるのが、市民の皆さんが安心して暮らすための福祉の充実などに使われる民生費です。前年度に対し1.7ポイントの減で、全体の31.9%を占めています。

次に多いのは総務費で全体の18.1%を占め、前年度に対し1.1ポイントの増となりました。新庁舎建設事業費などの増によるものです。

以下は衛生費、公債費、教育費、土木費、農林水産業費、消防費の順となっています。

会計別の当初予算額

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	比 較	
			増減額	増減率
一般会計	243億2,250万9千円	232億4,700万円	10億7,550万9千円	4.6%
特別会計	118億7,210万円	116億9,660万円	1億7,550万円	1.5%
国民健康保険事業特別会計	56億9,700万円	56億7,700万円	2,000万円	0.4%
後期高齢者医療特別会計	6億4,670万円	5億9,920万円	4,750万円	7.9%
介護保険事業特別会計	55億2,840万円	54億2,040万円	1億800万円	2.0%
企業会計	14億7,848万4千円	13億9,383万5千円	8,464万9千円	6.1%
水道事業会計	11億3,786万4千円	10億3,743万3千円	1億43万1千円	9.7%
公共下水道事業会計	2億2,887万4千円	2億3,409万1千円	△521万7千円	△2.2%
農業集落排水事業会計	1億1,174万6千円	1億2,231万1千円	△1,056万5千円	△8.6%
合 計	376億7,309万3千円	363億3,743万5千円	13億3,565万8千円	3.7%

令和 4 年度当初予算を市民 1 人当たりに換算すると・・・

市民1人当たりが負担する市税

総額 110,200円

※金額は、令和4年2月28日現在の住基人口(33,335人)で計算しています。
(鉱産税、国有資産等所在市町村交付金は除く)

市民1人当たりに使われるお金

総額 729,639円

※金額は、令和4年2月28日現在の住基人口(33,335人)で計算しています。



固定資産税
65,217円



市民税
34,070円



民生費
232,572円



総務費
131,894円



衛生費
67,441円



公債費
67,022円



市たばこ税
6,000円



軽自動車税
4,913円



教育費
63,186円



土木費
48,243円



農林水産業費
46,716円



消防費
34,233円



その他
38,332円

令和4年度

当初予算の特徴

南九州市では、将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を目標として掲げ、南九州市総合計画に基づきまちづくりを進めています。ここでは、令和4年度の当初予算の特徴について紹介します。

子育て支援の充実

1 子育てしやすいまちづくりプロジェクト事業

川辺地域の第1児童館に子育て支援拠点を整備し、併せてワーク・ライフ・バランスの実現と地域の子育て拠点のネットワーク化を図り、子育て支援体制の強化を目指します。

2 子ども医療費助成事業

助成対象者を高校卒業までの全ての子どもに拡充し、疾病の早期発見、早期治療の促進を図ります。



教育環境の充実

1 小・中学校ICT推進事業【3197万円】

プログラミング教材やオンライン教材、授業支援ク

ラウドなどICT関連の機器を最大限に生かし、学力の向上とともに児童生徒の情報活用能力の向上を図ります。

2 市内高等学校活性化事業

市内3つの高等学校の活性化を図るため、各校活性化協議会の活動費を補助するとともに、在校生が受検する各種検定の受検料の一部を助成することで、地域の活性化と人材育成を目指します。

市の魅力発信

1 地域ブランディング事業

南九州市の魅力を紹介する統一デザイングッズの制作や、地域ブランド化を図るため、プロのカメラマンによる市内撮影ポイント案内ブックを制作します。



2 名物創生事業

南九州市でしか食べることのできない食のメニューや土産品など、南九州市ならではの特産品を創り出し、商店街を中心とした地域の活性化と、新たな観光の流れを生み出す取り組みを行います。

産業の振興

1 かんしよ 甘藷重要病害虫等総合対策事業

【1851万円】

かんしよ 甘藷重要病害虫等対策として健全苗の安定供給と実証農地設置により農業経営の安定と産地維持に努めます。

観光の振興

1 体験プラットフォーム造成事業

【2076万円】

着地型体験コンテンツの創出などにより体験型観光を推進し、滞在時間および観光消費額の拡大を図ります。

2 岩屋公園アウトドア事業

【6803万円】
岩屋公園周辺にアドベンチャー遊具などを整備し、滞在時間および観光消費額の拡大を図ります。

環境保全対策の推進

1 環境保全公害対策事業

【989万円】

地球温暖化の防止に向け、地球温暖化防止実行計画を策定し、市民・事業者・行政が省エネルギーなどの対策に取り組むことで温室効果ガス排出量削減を目指します。

効率的な行政運営の推進

1 新庁舎建設事業

【2億8230万円】

新庁舎建設に向け、基本・実施設計業務を中心に、執務室などのオフィス環境や電算システムの環境整備などの関連事業の取りまとめや管理を行います。

2 行政DX推進事業

【582万円】

CIO（情報統括役員）補佐官および行政デジタル化推進員を民間事業者から採用し、本市行政DXの推進を図ります。